

つながる・ひろがる交流会～名東学区～

日時：令和2年1月30日(木)

午後2時～3時30分

場所：名東区役所 講堂

テーマ 「育児サロン 転勤者の多い地域での子育て支援活動 400回を迎えて」

1 概要

<学区の特徴と育児サロンの概要について>

名東学区は転入転出が多く、学区内にイオンや児童館、名東郵便局があり生活しやすい地域。コミセンは西一社中央公園のすぐ南にあり、交通のアクセスも良い。2階の和室で開催しており、立ち上げ当初から事前予約や登録は不要。学区外からも参加していただいている。

<立ち上げにあたり大変だったことや宣伝活動について>

開設したてのコミセンが汚れるという反対意見もあったり、主任児童委員の歴史が浅く意見も通りにくかったが、子育て支援は地域に必要という後押しがあり開講に至った。宣伝活動で効果があったのは回覧板。参加者が少ない時は外で呼び込みもした。現在は掲示板を毎月更新しているほか、講座のチラシを作ったり赤ちゃん訪問の際に周知したりしている。

<サロンで実施している講座について>

初めての講座は杉浦先生の赤ちゃん体操。他にも保健師による相談会や保育園の先生による育児指導、乳幼児救命法講習会、クリスマス会など様々な企画を実施している。

<サロン参加組数や開催実績について>

年によって差はあるが、おおよそ十数組～二十組で推移している。平成31年3月7日は過去最多の40組に参加いただいた。平成22年12月16日に200回、平成26年8月7日に300回、平成31年4月18日に400回を達成。500回は令和5年秋頃予定。

<心がけていること、今後の取り組み>

赤ちゃん訪問などの際に「あの主任児童委員さんがいる」と思って来てもらえるように声掛けをしている。開催時間中でも出入りは自由。参加者で近い月齢の人同士をつないだりしている。今後はエリア支援保育所による講座や防災対策の講座を新たに開講予定。いつでも気軽に参加でき、みんなが笑顔になれるサロン作りを続けていく。

2 意見交換の主なやりとり

<質疑応答>

- (学区主任児童委員) ちはコミセン代だけで予算を使ってしまう。他の学区はどうか。
- (猪子石学区連協会長) 委員長が費用を負担している部分もある。参加者はおおよそ10数組。年間5万円を学区から出しているが、増やしていかなければと思っている。
- (蓬来学区主任児童委員) 推進協から3万円、学区から少々、市から2万円。
- (名東学区主任児童委員) 参加費100円、推進協から年間3万円、講師派遣事業の補助金2万円。講師代がかかるのは杉浦先生と日赤くらい。参加者が20～30組と比較

- 的多いので、参加費で潤っている。コミセンも無料で使わせていただいている。
- (貴船学区区政委員) 参加組数は24、25組でコミセン代はかかっていないとのこと。
 - (民生子ども課主査) 今年度から、おもちゃの購入にも講師派遣にも使える補助金が各学区2万円、区の予算から出ている。拡充等に活用していただければ。
 - (学区区政委員) サロンで使うおもちゃはどこにしまっているのか。
 - (名東学区主任児童委員) コミセンの倉庫。使用後は除菌・消毒している。
 - (学区区政委員) うちではサロンを卒業した母親が自主グループを立ち上げ、月2回ほど活動したりしているが、名東学区はどうか？
 - (名東学区主任児童委員) 卒業した方が自主的にコミセンに集まっていた時もあったが、転勤者が多いので気付くと立ち消えている。サロン立ち上げ時は、いずれは母親に自主的に運営してもらおうつもりだったが、入れ替わりが激しく定着しなかったので、主任児童委員主体でやっていくようになったとのこと。

<ご意見>

- (学区主任児童委員) うちでは18年やってきており、歴史は名東と同じくらい。月2回~3回やっているが当初は毎週開催。何をしたいかわからないところから始まったが、次第に慣れてきて活動の場を広げつつ、主任児童委員という名前を売ってきた。サロンで大切にしていることは同じ。
- (学区連協会長) うちでは子どもの数が少ない。2~3年前にピークはあったが減ってきている。サロンは月1回やっているが、うちのような学区でやるのはなかなか大変。
- (学区主任児童委員) 自分たちのサロンはマンネリ化していて、参加者が減っており最近では10組前後。1回でやめる方もいたり、続ける方もいる。
- (学区連協会長) うちも学区外の方も参加可だが、お母さん方が自転車で来る際に事故などに遭わないか心配。保険には入っており、今のところ大きなトラブルはないが。
- (学区区政委員) 和室を使っているのはうらやましい。うちでは倉庫から畳とおもちゃを出さなければならず、毎回苦労されている。孫が生まれると、子どもを大切にしなければならぬと感じる。母親のコミュニティの場作りや支援も手厚くしなければならぬ。
- (コミュニティサポーター) 1月の名東学区の育児サロンに参加し、感心したことがいくつかある。1つめは掃除を徹底的にしていたこと。2つめは母親に対するサポート。3つ目は主任児童委員や民生委員同士で関わり合い、安定して運営していたこと。他区の事例では、区内の大学の先生に話をつけ、学生にボランティア的に動いてもらっていた。またサロンを土曜日開催にしたところ父親が参加し、父親同士で別のイベントを立ち上げた事例もある。地域コミュニティ担い手不足の点で期待できるのでは。

3 まとめ

(名東学区連協会長) 名東学区は区内で2番目に人口が多く、子どもの数も多いので、これからは活動を充実させていきたい。コミセンでの赤ちゃん教室は4種類ある。定年が60歳から65歳になったことから、学区の活動がやっていきにくい社会情勢になっているので、コミサポの話は学区の活動にも参考にしたい。

(区長) 名東区は子どもの転入数が多い。区内のサロンは24箇所あり、今後も力を入れたいが、申し訳ないことに、保健センター直営のサロンが全市の方針で令和2年3月で終了になってしまう。今後はますます各学区での子育てサロンの重要性が増してくる。主任児童委員以外の方も含め、名東区の子育て環境が良くなるよう引き続きご尽力いただきたい。